



特集

フリーランスで
働くということ。

フリーランスで働くということ。

履正社専門では、様々な医療国家免許やスポーツ関連資格が取得できる。そして、手に職（資格）をつけることで拓ける進路は、就職だけではない。やりたいことが明確なら、フリーランスという道を選ぶこともできるのだ。現在フリーランスとして働く卒業生、そして、それを目指す在校生の姿を追った。



photographs by Haruo Kotera



1 本校には、集客方法、競合分析、広告方法やSNSの運用、強みを活かすセルフブランディングなどについて学べる授業がある 2 柔道整復学科では、独立開業支援のサポートも充実 3 本山さんの働き方はフレキシブル。お客様の自宅出張レッスンや施術に行くことも

本山小容子さんは、旧トレーナーコースの卒業生。神戸の閑静な住宅街で、プライベートサロンを一人で経営している。鍼灸治療、ピラティス、ヨガなどを中心に、お客様にトータルボディケアを提供するパーソナルトレーナーだ。開業当初から口コミだけでお客様は増え続け、今年で開業11年目。そんな彼女だが、卒業当時から開業を目指していたわけではなかった。

「卒業後はフィットネスクラブに就職して、水泳、ヨガ、ピラティスなどのグループレッスンや、パーソナルレッスンをしていた。就職して6年経った頃、『ここの仕事はやり切った』という実感があり、思い切って辞めることにしました。ちょうどそのタイミングで、『フリーランスでスタジオレッスンをやってほしい』と知人に頼まれたんです」

退社と同時に、これまでの熱心な働きぶりを見ていた人から、仕事の依頼が舞い込んできたのだ。

仕事も学びも、時間の使い方は自分しだい。

フリーランスとして働き始めてしばらく経ったある日、神戸でプライベートサロンを開いていた友人から、「遠方に引越すことになったから、この場所を使わない？」と声がかかった。縁もゆかりもない場所だったが、持ち前の思い切りのよさで急遽サロンを持つことに。開業当初のお客様は数えるほどしかなかった。しかし、スタジオレッスンの参加者が徐々にサロンにも来てくれるようになり、宣伝をせずともお客様が自然と増えていった。

フリーランスになったことのメリットは大きい。まず、自由にスケジュールを調整できるようになった。さらに、空いた時間を利用して様々な勉強会やセミナーに積極的に参加したり、新たな資格取得のための勉強をする時間も確保できるようになった。サロンを開いて3年目には本校の鍼灸学科に再び入学し、鍼灸師の資格を取得。仕事の幅が広がった。

「企業で働いていると、自分で意思決定できる範囲って案外狭いんです。一方フリーは、すべての決定権が自分にあります。だから、やりたいことがはっきりしている人には向いているかもしれません」

トレーナー歴20年、サロン開業歴11年の本山さんは、今後も自分の人生を、自分の力で切り拓いていく。

勉強が「苦しみ」ではなく「楽しみ」になった理由。

パーソナルトレーナーコースで学んでいる学生に、「やりたいことがはっきりしている人」がいる。入学後すぐに、「将来はフリーランスで働こう」と心に決めた、2年生の町洗希さんだ。

町さんは、高校生のときに身体を鍛える楽しさを知った。本校に入学後、トレーナーとして独立開業している教員に出会い、頑張りたいで結果が得られるフリーランスという働き方に興味が湧いてきた。

「将来は、自分のジムを開きたいです。そして、身体の不調を抱える人や、理想の体型を目指す人のボディメイクをサポートしたい。叶えたい夢がはっきりした瞬間から、勉強がさらに楽しくなりました。学校での授業や実習の日々が楽しすぎて、祝日に間違えて登校したこともあります（笑）」

高校生のときは勉強が苦手だった。現在は、「授業で学んだことは、実習などの現場で必ず役に立つ」という実感があり、「知識を得て技術を高めることに、無駄は一つもない」と、前向きに学ぶ。自分の夢のためにも、未来のお客様のためにも、学ぶことが、成長することでもあるつもりはない。

就職でもフリーランスでも、専門学校で得た知識、技術、人脈、専門資格は武器になる。そして、学び続けることをやめない人にお客様は信頼して身を預けてくれる。本山さんら卒業生は身をもってそれを示し、町さんをはじめ、在校生はそれに続く。これまでも、そしてこれからも。